

地域のお祭り

地域を盛り上げ、交流を促進する、
市民参加型のお祭りが開かれています。



開催
秋分の日を
含んだ9月の
3日間

あかりと ちやっぱんぽん

260年以上の歴史を持ち、国の重要無形民俗文化財に指定されている伝統芸能、八女福岡の燈籠人形の“灯り”、また、日本一の盆提灯生産量を誇る八女提灯の“灯り”、さらに、電照菊の発祥地として全国的に有名であることからテーマを“あかり”とし、八女の伝統文化と産業をアピールする市民参加型の祭りを開催しています。期間中、八女福岡の界隈では、燈籠人形のほか、提灯まつり、あかり絵パレード、地場産まつり、町屋まつりなどが開催され、夜まで多くの人で賑わいます。

黒木の大藤は後征西將軍良成親王のお手植えと伝えられ、樹齢600年以上を数える現在でも力強く生き続け、国の天然記念物に指定されています。大藤がある素盞鳴神社には、約3,000平方メートルもの広大な藤棚が広がっており、毎年4月中旬ごろに開花し、1メートルを超える紫色の花房を垂下させます。開花期間中には、町内各地で各種イベントや物産展、郷土料理の販売などがあります。毎年全国各地から約20万人もの人が訪れ、藤の美しさと香りに魅了されています。

八女 黒木大藤まつり

開催
4月下旬～
5月初旬



開催
2月中旬～
下旬

立花町は九州有数の梅の産地。約80ヘクタールの広大な斜面に約3万本の白梅が咲き誇る谷川梅林一帯は、九州の梅の三名園の一つに数えられています。その見ごろに合わせて、ワインなど特産品や郷土料理の販売、各種イベントなど盛りだくさんの観梅会が開かれます。期間中、立花町ワインセラー内では約3,000本の竹灯籠に灯りをともし「竹あかり幻想の世界」を、全国各地でも珍しい昼間に開催しています。

夢たちばな観梅会



開催
5月下旬～
6月上旬



上陽ホテルと 銘茶まつり

上陽町の星野川、横山川には季節になると多くのホテルが舞い飛びます。まつり期間中は「ホテルの総合案内所」を設置し、ホテル連絡員が訪れた人にホテルの見所を紹介するほか、町内各所で新茶の無料接待やバザーなどのイベントを行っています。平成24年の水害により、上陽町も大きな被害を受けましたが、ホテルの幼虫を放流するなど、復活に向けての取り組みが続けられています。



八女 星のまつり

開催
11月中旬



山々の紅葉が眩しい彩のなかで開かれる星野村最大のイベント（八女星のまつり）が、毎年11月上旬に星のふるさと公園内「平和の広場周辺」で行われます。

会場では伝統本玉露の産地ならではの玉露の入れ方講座、闘茶会、手揉み茶の実演、野点などお茶にまつわるイベントが実施されます。

メインは九州各地の太鼓団体による競演「九州和太鼓フェスティバル」が行われ力強い演奏を楽しむことができます。その他「物産、バザーコーナー」では、地元特産品の販売、だご汁、ヤマメの塩焼きなど星野故郷ならではの味を堪能することができます。



八女 矢部まつり

開催
11月第3
土・日曜日

矢部川源流公園で開かれる矢部村の秋祭りで、地元の新鮮な農産物の直売をはじめ、コケッコ競鶏レース、丸太切り競争、川沿いのロケーションを活かしたヤマメ・ニジマス釣りなどが楽しめます。また、地元の小中学生による八女津媛神社の浮立（福岡県無形文化財）の伝承披露、矢部に代々伝えられている行事、石づきなどを広く紹介し、地域間交流を深めるまつりです。



八女・豪雨災害と復興

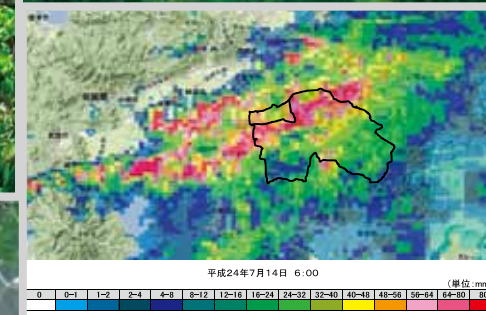
平成24年7月の豪雨災害

平成24（2012）年7月11～14日に九州北部を中心に発生した集中豪雨は、観測史上最大の降雨量を記録しました。13日から14日にかけて、八女市でも急激な記録的豪雨となり、黒木町、上陽町、立花町、星野村を中心に大きな被害をもたらしました。ここでは、生々しい災害の痕跡と復興を写真でご紹介します。

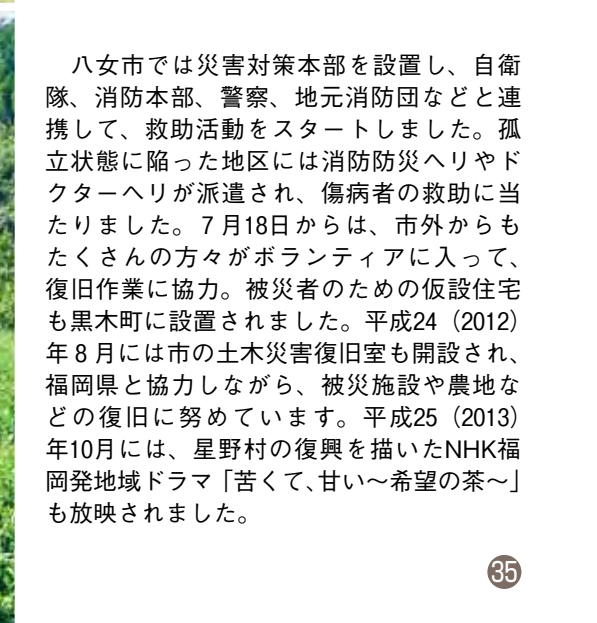
観測史上最大の雨量を記録



7月11日から、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって、南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部は大雨になりました。八女市では13日の夜遅くから14日の午前にかけて急激な豪雨となり、星野村での時間最大雨量が96.0mm、黒木町では11日から14日までの総雨量が649.0mmになるなど、記録的な雨量を観測しました。豪雨の前にも数日にわたって雨が降っていたことから、河川の増水や氾濫、道路の冠水や土砂災害が広い地域で起こりました。14日9時45分には、八女市全域に避難指示が出されました。



この豪雨により、黒木町と星野村で土砂災害が起こり、それぞれ1名の方が亡くなり、10名の方が負傷。八女市内での建物被害は1,760件、土砂災害力所数2,574カ所、土砂災害による被災額約214億円に及び災害発生当初6,659人の方が避難しました。村外に出る9つの主要道路がすべて寸断され、星野村全域が孤立したほか、黒木町笠原地区、上陽町久木原地区も孤立状態に陥りました。



復興へ 復旧作業とボランティア活動

自衛隊、消防本部、警察、地元消防団などの協力のもと、市ではすぐさま復旧作業を開始。市外からもたくさんのボランティアの方が入って、復旧作業にあたり、八女市災害ボランティアセンターも設置されました。現在も、星野村災害ボランティアセンターと黒木町の山村塾が中心となってボランティア活動を続けています。



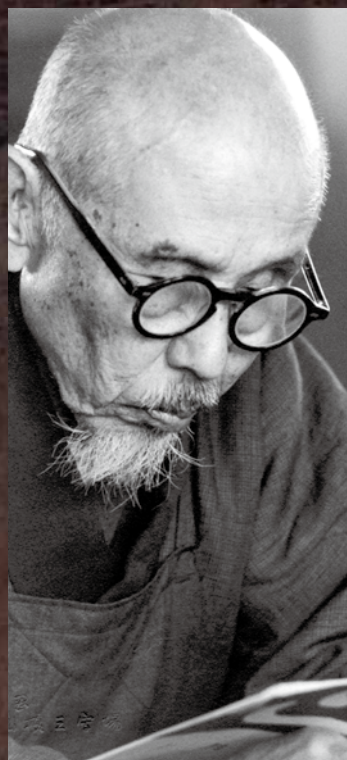
あの時の

美術と文学を拓いた巨匠たち

あの人の

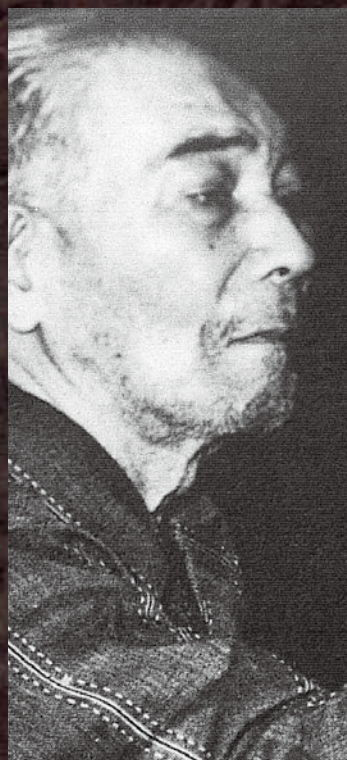
江戸時代から、さまざまな文化の華が咲き誇った八女。その伝統を受け継いで、明治以降もさまざまな芸術家、作家が画壇や文壇で活躍してきました。市内にはたくさんの文学碑が置かれているほか、ゆかりの文化人をしのぶイベントも開催されています。

文化勲章受章者



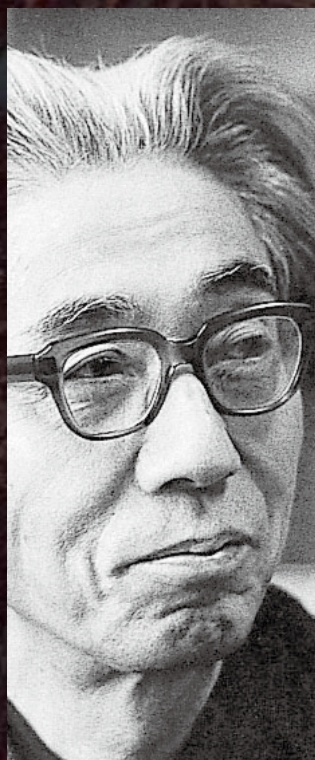
坂本繁二郎

八女の自然と風土を愛した洋画家
(1882～1969)
久留米市に生まれ、フランスに留学して中間色による独自の色調を身につけました。帰国後、「東洋のバルビゾン」と呼んで八女の自然と風土を愛し、アトリエを建てて38年間制作に励み、郷土文化の発展にも大きく貢献しました。毎年文化の日には、八女公園にある銅像前で「帰居祭」が開かれ、献茶などが行われます。



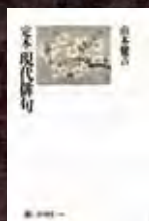
田崎廣助

日本の山々を描いた風景画の巨匠
(1898～1984)
自然の風景を日本的な表現で描いた洋画家。立花町に生まれてフランスに学び、有島生馬を中心とする芸術家団体「一水会」の創設に参加。阿蘇山をはじめ、日本の山を題材にした風景画を得意とし、日展の理事も務めました。立花町ワインセラーには、「田崎廣助画伯ギャラリー」が置かれており、観梅の季節に一般公開されます。



山本健吉

古典と現代を結んだ
文芸評論家
(1907～1988)
豊かな学識を背景に、古典から現代文学まで論じた文芸評論家。黒木町出身の作家・文芸評論家、石橋忍月の子息で、日本文藝家協会の会長を務めました。八女市には墓と妻で俳人の石橋秀野と同じ石を分けあつた夫婦句碑があります。夫婦句碑の建立に際して、親交のあつた歌手のさだまさしさんは「夢しぐれ」という曲を作りました。



安部龍太郎

歴史小説の時代を担う作家
(1955～)
黒木町生まれ。図書館司書を勤めるかたわら、数々の文学賞に応募し、平成2(1990)年、「血の日本史」で作家デビュー。平成17(2005)年に「天馬、翔ける」で第11回中山義秀文学賞を受賞。同24(2012)年に絵師、長谷川等伯を主人公にした「等伯」で第148回直木賞を受賞。歴史小説の時代を担う作家として大きな注目を集めています。



杉本章子

江戸を舞台にした
小説で人気
(1953～)
八女市生まれ。昭和54(1979)年に大学院の修士論文で扱った儒学者、寺門静軒を描いた小説「男の軌跡」で作家デビュー。江戸を舞台にした時代小説で人気を集め、昭和63(1988)年に「東京新大橋雨中図」で第100回直木賞を、平成14(2002)年に「信太郎人情始末帖」シリーズ第一作「おすず」で2002年度中山義秀文学賞を受賞しています。



五木寛之

小説、評論、エッセイなど
多方面に活躍
(1932～)
立花町生まれ。福島高校(八女市)時代は、学校新聞を創刊し、自ら連載小説を執筆。昭和42(1967)年に「青ざめた馬を見よ」で第56回直木賞を、同51(1976)年に「青春の門」で、豊福で第10回吉川栄治文学賞を受賞。また、直木賞をはじめ、多くの文学賞の選考委員としても活躍し、現在、新聞小説「親鸞」を連載中。八女市立図書館には五木寛之コーナーがあります。



八女の直木賞作家

*直木賞／新人及び中堅作家による大衆小説作品に与えられる文学賞。文藝春秋社社長の菊池寛が時代小説の人気作家、直木三十五を記念して昭和10(1935)年に芥川賞とともに創設しました。

*文化勲章／科学技術や芸術などの分野で、文化の発展や向上にめざましい功績のある人に授与される勲章。毎年11月3日の文化の日、皇居宮内省の閣下で、天皇陛下から直接授与されます。

桜の名所



上陽

上陽町では、星野川の清流と石橋、桜の競演があちこちで楽しめます。中でも、寄口橋近くの北川内公園には600本ものソメイヨシノが咲き誇り、夜には幻想的にライトアップされます。シーズンには「桜と石橋まつり」も開催されます。



矢部川堤防の河川敷沿いには、ラブリバー遊歩道が整備されており、春には土手いっぱいに黄色く咲き揃う菜の花と満開の桜が楽しめます（写真左）。また、無量寿院の参道も桜の名所として知られています（写真下）。



八女



立花



江戸時代に築かれた矢部川堤防の河川敷沿いに広がる千間土居公園にはソメイヨシノが植えてあり、桜を愛でながら遊歩道を散策できます（写真左）。また、光友地区も桜の見事さで知られています（写真上）。



星野

星のふるさと公園は、星野村を代表する桜の名所です。なかでも麻生池（周囲700m）の湖水に映し出される光景は、訪れた客を魅了しています（写真右）。

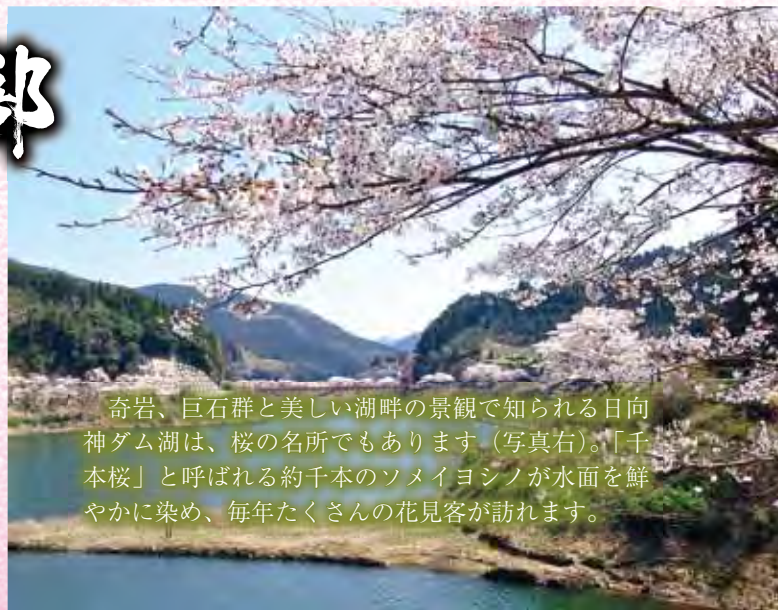
また、棕谷地区の大草自然公園では、白色の花を多数つける大島桜が人気のスポットです（写真上）。



マナーを守ろう！

- ・花や木を傷つけないようにしましょう
- ・私有地には入らないようにしましょう
- ・自分のゴミは持ち帰りましょう

矢部



奇岩、巨石群と美しい湖畔の景観で知られる日向神ダム湖は、桜の名所でもあります（写真右）。「千本桜」と呼ばれる約千本のソメイヨシノが水面を鮮やかに染め、毎年たくさんの花見客が訪れます。

黒木



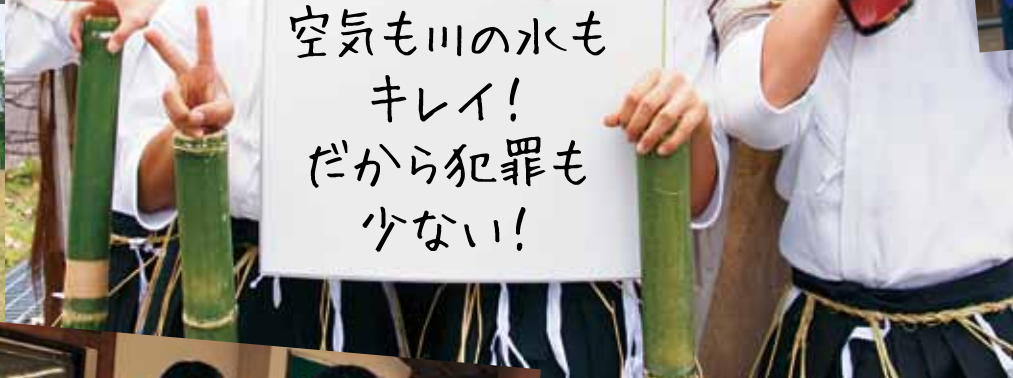
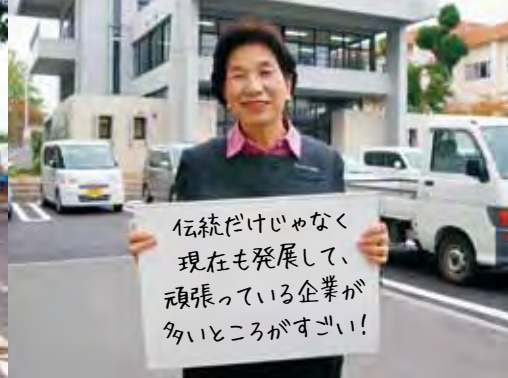
光善寺には、樹齢200年とも400年ともいわれるしだれ桜があり、八女市でも早い時期に咲くことで知られています（写真左）。また、城山公園には、ソメイヨシノ、大島桜など、1500本以上が植えられています（写真下）。



私の八女・私の夢 ～60のメッセージ～

市制施行60周年を記念して、市内外の方々に
八女の好きなところ、八女と自分の夢について
メッセージをいただきました。





悠久の歴史



八女という地名は、矢部村の八女津媛神社に祀られている女神から取られました。岩戸山古墳など、多くの古墳群があることから分かるように、八女市周辺は古くから繁栄しており、古代史の大事件である「磐井の乱」の舞台ともなりました。また、南北朝時代にも動乱の舞台となり、八女で亡くなったとされる二人の親王は、今も地元の人たちから慕われています。

悠久の歴史

巨大な古墳を築き、海外とも交易した筑紫君磐井

八女丘陵上には、4世紀から7世紀にかけての古墳約300基が築かれており、八女古墳群と呼ばれています。その中心をなす北部九州最大の前方後円墳、岩戸山古墳(国指定史跡)は筑紫君磐井の墳墓とされます。磐井は6世紀前半頃に八女地方を治めていた古代豪族で、大陸や朝鮮半島との独自の交流ルートを持ち、繁栄をきわめていたとされます。しかし、継体天皇の時代、朝鮮半島出兵への軍事負担を強いられた九州の豪族たちは磐井を盟主として、527年にヤマト王権から独立し、郷土を守るために乱を起こしました。古代史最大の戦いとされる「磐井の乱」です。

戦いは1年半も続きましたが、結局、磐井はヤマト王権の軍勢の前に敗れてしまいます。しかし、その後も息子の葛子を中心に、磐井一族は健在だったようで、鶴見山古墳など大型の古墳が次々に築かれます。八女古墳群周辺からは、石人・石馬や鉄製武器、埴輪などが出土しており、それらを収蔵する岩戸山歴史文化交流館(仮称)を現在建設しています。



岩戸山古墳



竪穴住居(復原)



岩戸山歴史文化交流館(仮称)

悲劇の二親王と南北朝動乱のドラマ

皇室の正統を争って、60年にも渡り全国で戦乱が繰り返された南北朝時代。北部九州は南朝側の重要な拠点の一つになり、八女でもさまざまな歴史のドラマが生まれました。

後醍醐天皇の第16皇子、懐良親王は征西将軍として九州に派遣され、北朝方に打ち勝って、大宰府に征西府を置きました。その頃から親王はたびたび星野を訪れていましたが、北朝方に敗れてからは星野で養生に専念し、大円寺で仏道ごんまいの日々を過ごしたとされます。大円寺には親王ゆかりの品々を収蔵する資料館があり、星野の空谷山には墓所が建てられています。

懐良親王から征西将軍を受け継いだ甥の良成親王も、失地を回復することはできず、矢部でその短い生涯を終えました。親王お手植えのイチヨウや大藤など、八女にはゆかりの場所がたくさん残されており、宮内庁が認定した御墓所も大仙御所にあります。親王につかえた五條家が代々陵墓を守っており、毎年10月8日の命日には御霊を慰める「大仙公園祭」が行われます。

五條家には天皇綸旨や武家文書など、南朝方の動向をうかがい知る「五條家文書」(国指定重要文化財)が369通残されています。



懐良親王御墓所



大円寺



大仙御陵墓

60年のあゆみ

1954年～昭和29年～

八 女	
昭和29年	市制施行、初代市長に中島一之 坂本繁二郎画伯を名誉市民に推挙 八女商工会議所設立
昭和30年	山内大橋完成、矢部川橋完成 市章、市歌を制定 岩戸山古墳が国の史跡に指定
昭和31年	財政再建団体の指定（昭和34年まで） 童男山古墳が県史跡に指定 坂本繁二郎画伯が文化勲章受章 福島燈籠人形保存会が発足
昭和32年	国鉄矢部線花宗・蒲原・今古賀駅開業
昭和33年	大干ばつにより対策本部を設置 三井電車廃止
昭和34年	石人・石馬など48点が県の文化財に指定 坂本繁二郎画伯が市に「箱」の絵を寄贈 市役所を現在地へ移転
昭和35年	第1回市民体育祭開催 八女民生病院組合設立（44床） 八女音頭発表会
昭和36年	八女市農業協同組合発足 坂本繁二郎画伯の銅像を西公園に建立
昭和38年	長雨で被害続出（被害額2億3000万円）
昭和39年	市内の電話自動化
昭和40年	八女市広報創刊 八女市消防本部開庁
昭和42年	国道3号バイパス開通
昭和43年	中央公民館完成
昭和44年	坂本繁二郎画伯逝去（87歳） 市消防署を組合立（八女市・立花町・広川町）に組織変更
昭和45年	市庁舎完成（現庁舎）
昭和46年	八女公会堂解体 全国手すき和紙大会を八女市で開催
昭和47年	八女民生病院を八女公立病院と改称 市立図書館発足 国土調査終了（昭和28年から） 市町村会館完成
昭和48年	岩戸山古墳史跡公園化成る 老人福祉センター完成 八女地区県営農地開発パイロット事業完成 九州縦貫自動車道八女インターチェンジ開通
昭和49年	八女市土地開発公社設立 市木・市花を制定 市民野球場オープン
昭和50年	市民憲章制定
昭和51年	第1回帰居祭 石人・石盾が国の文化財に指定
昭和52年	八女福島仏壇が国の伝統的工芸品に指定 八女福島 of 燈籠人形が国の重要無形民俗文化財に指定
昭和53年	丸山塚・丸山・茶臼塚古墳が国の史跡に指定 第1回八女ふるさと祭り開催
昭和54年	西公民館完成 集中豪雨で農産物に被害、500戸以上が家屋浸水 総合体育館完成 八女中央茶共同組合が天皇杯受賞
昭和55年	向井去来の句碑、岩戸山古墳に建立
昭和56年	第1回市民マラソン大会開催 東公民館完成

黒 木	
昭和29年	町制施行により、黒木町、豊岡村、串毛村、木屋村、笠原村が合併。「黒木町」誕生 黒木町長選挙（初代町長・内藤勘藏） 町営住宅完成（上ノ峰団地10戸・白岩団地10戸・築山団地九戸）
昭和31年	黒木町農業委員会発足 黒木町体育協会発足
昭和32年	大淵村を編入合併 黒木町戦没者合同慰霊祭が初めて行われる 米作日本一競作会 九州ブロック第1位・平島仁助
昭和33年	役場庁舎（旧）落成 米作日本一競作会 九州ブロック第1位・斉藤義勇 町営木屋診療所設置
昭和34年	町営住宅完成（谷団地20戸） 有線放送電話開設
昭和35年	黒木公園竣工
昭和36年	黒木町から初めて3家族がボリビアへ移民 護国神社竣工
昭和37年	老人ホーム「八媛苑」竣工
昭和38年	黒木町農業協同組合設立 「献茶祭」が初めて開かれる 黒木町章決まる
昭和39年	町営住宅完成（谷団地20戸）
昭和40年	町民体育館竣工
昭和42年	NHK青年の主張全国コンクールで三宅輝光が3位入賞 山村振興地域に指定
昭和43年	黒木町立弓道場「大明館」竣工（平成8年移転） 町道の舗装始まる
昭和44年	学校給食センター竣工（桑原地内）
昭和45年	黒木中学校統合（黒木・豊岡・笠原・大淵分教場設置） 八女地区消防組合加入。八女消防署黒木分署設置 笠原地区茶パイロット事業竣工
昭和46年	NHK青年の主張全国コンクールで永石久枝が最優秀賞を受賞 八女消防署黒木分署竣工 新宮祭献穀米のお田植祭が北木屋馬渡で行われる 塵芥焼却場「若山園」竣工
昭和47年	統合黒木中学校校舎竣工 黒木町の電話自動化 黒木文化連盟発足 黒木町開発センター竣工 「若山斎場」竣工
昭和48年	第1回くろぎ文化祭開催
昭和49年	広域基幹林道奥八女線起工（～昭和58年3月開通）
昭和52年	民放テレビ局黒木中継局開設
昭和53年	黒木西小学校開校（豊岡・串毛小統合）
昭和54年	豊岡町民グラウンド竣工 本分保育所竣工 町営住宅完成（吉書場団地）
昭和55年	串毛町民グラウンド竣工 過疎地域の指定を受ける
昭和56年	勤労者体育センター竣工
昭和58年	大淵地区基幹集落センター竣工 串毛地区コミュニティセンター竣工 「黒木町音頭」レコード完成（歌 三波春夫） 町花・町木決まる

立 花	
昭和30年	八女郡光友村、北山村、白木村、辺春村が対等合併し、「立花町」誕生（議員数55名） 初代町長に中村次平氏就任
昭和31年	第1回立花町産業総合物産展を開催
昭和32年	町営住宅（谷川団地、国見団地）20戸が完成 社団法人立花町商工会創立 光友・辺春地区が農山村振興地域に指定
昭和33年	大干ばつにより、大きな被害を受け対策本部設置 円福寺の「ジャクシン」と「タイザンボク・ハクモクレンの癒着木」が福岡県の天然記念物に指定
昭和35年	「館報たちばな」「たちばな町政広報」を合わせて「広報たちばな」を発行 兼松地区の改良国道開通
昭和36年	立花町商工会が発足 光友農協ミカン選果場完成
昭和37年	役場新庁舎完成 堤絹子（下辺春出身）が走り高跳びで室内新記録を出し、全米陸上選手権大会や第4回アジア大会でも優勝 集中豪雨により辺春川等が氾濫、大洪水
昭和38年	辺春農協ミカン選果場完成
昭和40年	立花町連合婦人会誕生 立花町体育協会発足
昭和41年	町営住宅兼松団地完成（1期） 立花町出身の作家五木寛之氏が「蒼ざめた馬を見よ」で直木賞を受賞
昭和42年	立花みかんがソ連に初輸出 大干ばつ「倉石農相干害視察来町」 立花町立体育館完成 町営住宅山崎団地完成
昭和43年	立花町消防団、日本消防協会より表彰 町営住宅兼松団地完成（2期）
昭和44年	大洪水・激じんに指定
昭和45年	八女消防署立花分署完成
昭和46年	今村康博が技能オリンピックで金メダルを獲得（下辺春出身）
昭和47年	老人憩いの家「とびかた」完成
昭和48年	社会福祉法人「立花町社会福祉協議会」発足 果樹分析センター完成
昭和49年	上辺春小創立百周年
昭和50年	北山・白木・辺春地区に公民館完成 飛形公園と慰霊碑が完成 田崎廣助画伯文化勲章を受章 立花議会報第1号発行
昭和51年	町内全域をはたる保護区域として保護条例施行 田崎廣助画伯が名誉町民第1号となる キウイフルーツ導入
昭和52年	北山小学校創立100周年記念祭 松延家住宅が国の重要文化財に指定
昭和54年	西日本一帯集中豪雨に見舞われる オレンジロードの全面開通（黒木～立花～大牟田間）
昭和55年	町民憲章制定 町木・町花・町歌の制定 働く婦人の家完成 担い手研修センター完成 第1回立花まつり開催
昭和56年	谷川寺（谷川）の木造仁王像を町文化財に指定
昭和58年	立花町青少年育成町民会議発足

上 陽	
昭和33年	北川内町と横山村が合併して上陽町が誕生 小川秀木氏初代町長に就任
昭和35年	合併により上陽町森林組合が発足 町役場庁舎新築竣工 上陽町青年団発足
昭和36年	町報「じょうよう」第1号発刊 上陽町商工会発足 旧役場跡に社会会館が竣工
昭和38年	田代橋が竣工 上横山保育会「保育所西光園」が開所
昭和39年	下横山木浦に万年橋竣工
昭和40年	第1回筑後地区親善剣道大会が北川内中学校体育館で開催
昭和42年	第1回町民体育祭開催 地域集団電話開通 70数年ぶりの異常干ばつとなり、農産物に被害 堀川バス尾尾線が開通
昭和43年	第1次辺地対策事業 万年橋～尾久保間道路
昭和45年	第1期農免道路工事竣工 合併で上陽町婦人会発足 過疎地域に指定される 寄口橋拡幅 歩道設置
昭和46年	八女消防署上陽分駐所を祇園堂に開設 下横山小学校がソニー優秀賞を受賞
昭和47年	北川内小学校全面改築
昭和48年	東山小学校創立70周年記念式典 上陽町中央公民館完成 老人憩の家竣工 発心城跡が県指定史跡文化財になる 県道北川内草野線完工
昭和49年	農免道路の全線が開通 古賀～木浦間 上陽町製茶研修工場竣工 藤木木浦線道路改良工事竣工 祇園堂交差点に上陽町初の信号機を設置 北川内小学校創立100周年記念式典 耳納幹線林道完成 いちご栽培が始まる
昭和50年	岩下橋竣工 紅葉三川線全線完工 第1回上陽町体力づくり歩こう会開催
昭和51年	新入学児に初めてランドセルが贈呈される 上陽町音頭のレコードができる
昭和53年	マンモス象の臼歯化石部分、打越で発見 真名子の小淵橋竣工 上陽町体育館が旧社会会館跡に竣工 倉員辰雄画伯が没する
昭和55年	上陽町文化連盟発足 自給肥料供給施設が下横山に竣工 第1回上陽町総合文化祭開催
昭和56年	研修センター「発心」が三川に竣工 上陽町消防団の組織を1本部、4分団29班に組替する 北川内地区簡易水道竣工 下横山小学校創立100周年記念式典 上陽郵便局が大瀬に新築移転
昭和57年	八女消防署上陽分駐所を八女東消防署上陽分署に改称昇格 横山郵便局が新築移転

矢 部	
昭和32年	日向神ダム建設（笹又地区）により校舎水没のため飯干小学校が移転新設
昭和35年	県営日向神ダム完成
昭和36年	善正寺「厨子」県文化財に指定 フクニ児童文化賞受賞（矢部中学校）
昭和37年	矢部村愛林クラブ設立
昭和38年	村有林育成大事業
昭和39年	栗園の開発を開始（3カ年計画）
昭和40年	矢部村老人クラブ設立
昭和42年	矢部～前津江線県道が開通 矢部村商工会発足 村章を制定（公募）
昭和43年	日出小学校を矢部小学校に統合
昭和46年	八女東消防署矢部分駐所を設置 御側小学校を矢部小学校に統合
昭和47年	矢部村基幹集落センター「おおそま」落成
昭和49年	八女津媛神社「浮立」県無形民俗文化財の指定を受ける
昭和51年	矢部村商工会青年部を結成 矢部村商工会婦人部を結成 高巢小学校を矢部小学校に統合 県道八女小国線 国道442号に昇格
昭和53年	矢部村商工会青年部を結成
昭和54年	矢部村商工会婦人部を結成
昭和55年	高巢小学校を矢部小学校に統合
昭和57年	県道八女小国線 国道442号に昇格
昭和60年	第1回矢部村桜まつり健康マラソン大会開催 第1回矢部まつり開催
昭和61年	矢部中学校、県教育文化功労賞受賞
昭和62年	村花、村木、村鳥を指定 「杣人の家」開設 [村を考えるシンポジウム] 開催、特別講演は劇作家の栗原一登氏
昭和63年	矢部小学校跡に庁舎、中央公民館完成 「秘境杣の里」シンボルマークが決定。福岡・熊本・大分県境にある矢部村の発展をイメージ
平成元年	村制100周年記念事業を敢行 矢部村商工会館が落成 劇作家、栗原一登氏を名誉村民に 村歌「ふるさと矢部」「大杣・矢部の風唄」制定 財団法人「秘境杣の里」設立 釈迦岳が福岡県で最高峰と確認される
平成2年	秘境杣の里渓流公園本オープン とびうめ国体、炬火採火地に選定される 広域基幹林道「矢部線」開通
平成3年	第1回「世界子ども愛樹祭コンクール」実施 総合福祉団地「ゆいのもり」造成開始
平成4年	福岡市中央区にアンテナショップ「ソマリアン」（福岡天神）オープン 全国秘境サミット矢部会議を開催 過疎地域活性化優良事例が国土庁長官賞を受賞
平成5年	矢部村高齢者生活福祉センターがオープン
平成6年	桜まつり健康マラソン大会や村民体育祭の取り組みで「全国体力づくり国民会議長賞」を受賞
平成7年	秘境杣の里に八女津媛像完成 広域基幹林道北矢部線の「あいのひめはし」（全長90.5メートル）が完成。題字は女優の栗原小巻さんの直筆 奥の院で全日本トライアル選手権九州大会が開催。来場者は1600人 豊かなふるさとづくり全国フォーラムが内閣官房長官賞を受賞
平成8年	小規模特別養護老人ホーム「ゆいのもり」開所 旬の厨ソマリアン（食材供給施設）オープン 県営シルバーハウジング・村営ゆいのもり住宅落成
平成9年	全国林業コンクールで矢部村愛林クラブ農林水産大臣賞受賞
平成10年	文部省、県指定へき地高度情報教育研究推進校（矢部小学校）平成10年度～12年度 矢部村とアンカレッジ小学校グローバルプロジェクト第1回会議を開催

星 野	
昭和30年	星野中学校、棕谷小学校、学校給食完全実施を開始 池の山に忠霊塔が建立 ※書は内閣総理大臣吉田茂
昭和33年	星野保育会（星光園）が開園
昭和34年	小野、仁田原、棕谷小学校にへき地集会所（講堂）を設置
昭和35年	星野村麻生神社のはんや舞が、福岡県無形民俗文化財に指定 星野小学校にへき地集会所（講堂）を設置
昭和36年	星野村商工会創立総会が開催 小野、仁田原小学校にプールが完成
昭和37年	県道八女・添田線全面開通 轟～千足間に堀川バス・西鉄バス運行開始
昭和38年	仁田原小学校が全焼
昭和39年	星野村に初めて消防ポンプ自動車を導入 星野村戸籍等民政資料が福岡県有形民俗文化財に指定 第1回星野村土産業祭が開催
昭和40年	星野村老人クラブ連合会が結成 星野村体育協会が結成 池の山忠霊塔前に戦死者遺族婦人部により、五重塔が建立 助産施設として、「星野村母子健康センター」が認可される
昭和41年	社会福祉法人星野村社会福祉協議会を設立 農村集団電話が開通
昭和42年	古塚地区にへき地保健福祉館（保育所併設）が完成 授産施設麻生園開設
昭和43年	役場前に建設された「平和の塔」に原爆の火を転火 本星野に窯が開かれ、星野焼（源太窯）が復活 国土調査始まる しぜん幼稚園開園 仁田原へき地保育所開設
昭和44年	星野村中央公民館完成
昭和45年	「広報ほしの」を創刊 大円寺境内に星野村史料館が開館
昭和46年	農家経営基盤の確立を期し、棕谷地区に開墾パイロット事業が竣工 耳納高原病院が開院 八女消防本部星野分駐所開設
昭和47年	この年から「星野村成人式」を1月5日前後に開催 村章を制定 十筆地区簡易水道給水開始 真名子ダム建設反対第1回村民決起大会開催 第1回村民体育大会開催
昭和48年	室山神社の杉と桁山の榎の木が福岡県文化財（天然記念物）に指定
昭和49年	行政福祉センター（庁舎）落成 「星野を守る会」を結成
昭和50年	星野村青年団、第1回青年祭を開催 十筆窯開かれる
昭和51年	山村振興事業によりヤマメの養殖場が完成
昭和52年	第1回ビレッジーズ・マラソン大会が開催 第1回星野村芸能祭を開催 星野村総合体育館竣工
昭和53年	第1回星野村茶製造競技大会が開催
昭和54年	室山熊野神社の「御神幸」が35年ぶりに復活 星野村健康増進センターが竣工 棕谷地区簡易水道給水開始
昭和55年	第1回星野土産業祭が開催 本星野地区簡易水道給水開始 特別養護老人ホーム「星寿園」開園
昭和56年	自給肥料供給施設が完成

60年のあゆみ

～2014年～平成26年

ハ	女
昭和58年	岩戸山古墳出土の石人石馬類が国の重要文化財に指定 勤労者体育センター完成
昭和59年	社会福祉会館完成 岩戸山歴史資料館開館 ハ女文化会館開館
昭和60年	市立図書館（新館）開館 国鉄矢部線廃止
昭和61年	ハ女伝統工芸館開館 伝統工芸館南側の市道に延長510メートルのフジ棚完成（50本のフジを植樹）
昭和63年	全国茶サミット開催 平和の像「ハトのささやき」を建立
平成元年	ハ女国際古墳シンポジウムを開催 ハ女民俗資料館開館
平成 2 年	ふるさと創生事業でアニメ映画「筑紫の磐井」制作
平成 3 年	台風17号でハ女福島島の燈籠人形屋台が壊れる 台風19号で市内に大被害
平成 4 年	高さ6.5メートルの日本一の仏壇完成 天皇皇后両陛下、伝統工芸館をご視察 西日本短期大学付属高校が全国高校野球選手権大会（甲子園）で優勝 「裸の大将」がハ女市でロケーション
平成 5 年	上水道給水開始（福島地区とその周辺地域） 宮野公園開園
平成 6 年	市のシンボルマーク、イメージキャラクター、イメージソングを決定 ハ女市高齢者憲章制定
平成 8 年	手すき和紙資料館開館 第1回矢部川物語開催
平成 9 年	横町町家交流館開館・ふるさと文庫開設、酒井田祐右衛門展開催 市内全域で分別収集開始
平成10年	第1回雛の里ハ女ぼんぼりまつり開催 べんがら村オープン
平成11年	横町町家交流館に酒井田祐右衛門資料室開設 山本健吉・石橋秀野の句碑を堺屋に建立
平成12年	種田山頭火の句碑をハ女公園に建立
平成13年	共生の森（リファイン）オープン ハ女提灯が国の伝統的工芸品に指定 坂本繁二郎筆塚建立
平成14年	ハ女福島島の白壁の町並みが重要伝統的建造物群保存地区指定 現原橋開通
平成15年	ハ女市で全国茶サミット開催
平成18年	上陽町と合併し、新ハ女市誕生 公共下水道が使用開始
平成21年	小中一貫教育校北洵学園開校
平成22年	黒木町・立花町・矢部村・星野村と合併し新ハ女市誕生
平成23年	ハ女市民会館「おりなすハ女」オープン
平成24年	大韓民国巨済市との姉妹都市協定締結 九州北部豪雨による大災害 ロンドンパラリンピック 金メダル安達阿記子さんに市民栄誉賞授与 (南)グリーンワールド ハ女天皇杯受賞 観光物産館「ときめき」オープン
平成25年	ハ女東部スポーツ公園オープン NHK福岡発地域ドラマ「苦くて、甘い～希望の茶～」放送

黒	木
昭和59年	ハ女茶山唄日本一大会が初めて開催される 鶯西小学校新築移転工事竣工
昭和60年	国鉄矢部線廃止
昭和61年	大規模年金保養基地「グリーンピアハ女」オープン
昭和62年	お茶の里公園オープン くろぎふるさと祭り・黒木平マラソン大会が初めて開催
昭和63年	町民憲章決まる
平成元年	豊岡コミュニティセンター竣工 峰越林道靈巖寺池ノ山線開通 サンスポーツランド黒木竣工
平成 2 年	きのこ村オープン 局地的豪雨により黒木町、立花町、矢部村に甚大な被害
平成 3 年	渡内小学校新築移転工事竣工
平成 4 年	「学びの館」（旧隈本邸）オープン
平成 5 年	石橋忍月文学資料館オープン NHKのど自慢が黒木町で収録される
平成 6 年	県内初斜張橋「はたる橋」開通 木屋小学校新築移転工事竣工 クリニックくろぎ開院 ハ女東部環境センター稼働
平成 8 年	黒木町立弓道場「大明館」竣工
平成 9 年	黒木町シルバー人材センター設立 大淵小学校開校（大淵・枝折・剣持・平野小学校統合） グリーンバル日向神峡オープン
平成10年	町営住宅完成（吉書場団地二四戸）
平成11年	平野ふれあいセンター竣工 黒木文楽座人形芝居会館竣工
平成12年	剣持ふれあいセンター竣工
平成13年	枝折ふれあいセンター竣工 町営住宅完成（谷田地40戸）
平成15年	木屋小学校、鶯西小学校統合 黒木町で第13回全国夫婦岩サミットが開催される 黒木町役場新庁舎落成
平成16年	笠原小学校、笠原東小学校統合 福岡県立輝翔館中等教育学校開校
平成17年	「くつろぎの森グリーンピアハ女」グランドオープン 黒木町「環境共生の里づくり」地域再生計画内閣府認定
平成18年	田代農村活性化センター竣工
平成19年	黒木西小学校、田代小学校統合 地域交流センター「ふじの里」オープン 笠原東交流センター「えがの森」オープン まちなみ交流館旧松木家住宅開館 学校給食センター新築移転工事竣工（北木屋地内）
平成20年	黒木小学校、渡内小学校統合 「くつろぎの森グリーンピアハ女」が森林セラピー基地認定を受ける NHK夏期巡回ラジオ体操が黒木中学校で開催 NHKラジオ「真打ち競演」公開録音が町民体育館で開催
平成21年	黒木地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定 黒木町が「竹林オーナー日本一」を宣言 黒木町図書館リニューアルオープン NHK福岡発地域ドラマ「母（かか）さんへ」旭座人形芝居会館ほかで撮影、放送
平成22年	黒木町、立花町、矢部村、星野村がハ女市に編入合併

立	花
昭和59年	古小原橋（小原）、黒岩橋（黒岩）、大塚古墳（上ノ原）が立花町文化財に指定 ハウスミカン栽培開始
昭和60年	4農協が合併、福岡立花農業協同組合として発足 キウイワインの試作開始
昭和61年	浦田古墳（谷川）を町文化財に指定
昭和62年	鬼隈横穴群（山崎）を町文化財に指定
昭和63年	町営住宅小倉谷団地完成 町交流センター完成
平成元年	飛形自然公園に展望台完成 松尾風流を復活させ、弁財天に奉納
平成 2 年	立花町観光協会設立 第1回立花町観梅会を開催 前川内橋・古立石橋・熊ノ川橋を町文化財に指定 「男ノ子焼の里」完成 立花ワイン株式会社設立 大水害、町指定文化財の熊ノ川橋と古小原橋が流失。高円宮殿下が水害見舞いに来町
平成 3 年	キウイワインの初仕込
平成 4 年	第1回矢部川まつりINたちばな開催
平成 5 年	谷川寺の木造薬師如来立像が県文化財に指定
平成 6 年	立花バンブー株式会社設立 キウイオリンピックinたちばな開催 第1回立花町収穫祭開催 釜屋橋完成
平成 7 年	立花バンブー竹炭工場完成 千間土居築堤300年記念祭 平成 2 年災害復旧工事完了
平成 8 年	町制施行40周年及び庁舎、町民センター落成記念式典開催 立花町史発刊
平成 9 年	蛍の谷フィッシングパーク「夢たちばなビレッジ」オープン 上辺春小学校バンブーキッズオーケストラ誕生
平成10年	さくら台団地完成 第1回生涯学習フェスティバル開催
平成11年	立花町隣保館完成 総合保健福祉センター「かがやき」完成 旧大内邸を町文化財に指定
平成13年	町営住宅山崎団地完成（第1期）
平成15年	町営住宅山崎団地完成（第2期）
平成16年	林道王子塚・御牧線開通
平成17年	道の駅たちばなオープン 立花町女性消防隊が全国女性消防操法大会に出場 辺春地区地域振興会議発足 『竹の町づくり「かがや姫さがし」の里づくり計画」が内閣府の地域再生計画に採択
平成18年	町制50周年記念式典 町内75行政区を25自治会に移行 光友・北山・白木地域振興会議発足
平成19年	県営住宅兼松団地完成
平成20年	活性化センター完成 松尾弁財天子ども風流最後の奉納 町道中通草場高山線開通
平成21年	子育て支援センター「きらきら」完成
平成22年	黒木町、立花町、矢部村、星野村がハ女市に編入合併

上	陽
昭和58年	高齢者等生産センターが三川に完成 尾久保地区に生活改善センター「さすがた」新築落成 上陽町保健センター竣工 上陽町社会福祉協議会が設立
昭和59年	久木原に農村婦人の家「しらべ」が竣工 下横山小学校が隣に新築移転 ハ女消防署管内で初めての婦人防火クラブ結成
昭和60年	猿落池自然公園、スポーツ広場、キャンプ場が納又にオープン 第1回上陽まつり開催
昭和61年	ハ重谷に筍加工施設が竣工 轟区的光遠木が県指定天然記念物文化財に第1回ハンググライディング全国大会開催
昭和62年	半沢橋完成 第1回イカダ下り開催
昭和63年	旧国鉄矢部線跡に町道大門口柴尾線が開通 町木・町花・町歌の制定
平成元年	春の山公園竣工 上陽町観光協会が設立
平成 3 年	春の山公園に日本一のモザイク壁画完成 上横山小学校、横山中学校の全面改築により併設、校舎が竣工
平成 4 年	台風19号 風倒木山林被害211ha 上陽の森コンサートでイメージソング「上陽マイホームタウン」を発表 ハ女上陽ゴルフ倶楽部オープン 産業廃棄物処理場反対運動
平成 5 年	第1回全日本きんま選手権大会開催
平成 6 年	ふれあい護摩公園竣工
平成 7 年	耳納大橋（150メートル）竣工 第1回上陽町万灯流し開催 洗玉橋が第1号上陽町指定文化財となる
平成 8 年	上陽町地域福祉センター竣工
平成 9 年	上陽町農業活性化センター竣工 上陽町畜場竣工 打越宅地第1期分譲開始
平成10年	久木原小学校閉校 尾久保小学校創立100周年記念式典
平成11年	ホテルの里水車公園竣工
平成12年	横山、北川内中学校が統合し上陽中学校と改称 打越宅地第2期分譲開始
平成13年	打越東西線竣工 洗玉橋の欄干部分出土 はたと石橋の館オープン
平成14年	西公園の間厩式五重塔を町の文化財に指定 下横山小学校と尾久保小学校が閉校。上横山小学校と東山小学校が閉校し、横山小学校になる 龐大橋完成 ふるさとわらべ館オープン
平成15年	尾久保に製茶技術研修工場が完成
平成16年	旧東山小学校跡地に東山地域ふれあいセンターが竣工 とびうめ国文祭上陽町絵本大会開催 上陽びっくり通信がはじまる
平成17年	横山小学校が閉校
平成18年	ハ女市に編入合併

矢	部
平成10年	矢部小学校が大野城市立平野小学校とインターネット姉妹校調印 各行政区に「地区集会所」建設開始（～16年）
平成11年	第1回矢部村保健福祉大会を開催 矢部村農林業担い手育成センター(株)クリエイトやべ設立 矢部川源流公園にモニュメントの日時計が完成（周囲約10メートル・高さ約8メートル） 「飯干太鼓」アラスカ州アンカレッジ市渡航演奏 飯干小学校・矢部小学校に統合 「矢部村豊かなむらづくりの会」が発足 中切畑イチゴ団地が九州沖縄サミットにイチゴを提供 ハ女津媛浮立館が開館 杣の木工グループが発足
平成13年	第10回世界子ども愛樹祭コンクール授賞式（10周年記念） 第1回矢部村総合食品祭が開催 矢部川源流公園を整備（広場・遊歩道・モニュメントなど） 矢部川流域市町村連携協議会設立総会開催（第1回矢部川流域サミット矢部村で開催） 原生林「源流の森」遊歩道、展望休憩所等を整備 矢部村特産物販売施設「出逢」が新装開店 「世界子ども愛樹祭コンクール」が県教育文化表彰を受賞
平成14年	多目的交流施設「ステージアロー」完成 矢部村多目的交流ホール「木龍」が完成 第17回村を考えるシンポジウム宇宙飛行士「秋山豊寛」氏を招へい 矢部中学校の新校舎が完成、12月上旬から新校舎で授業開始
平成15年	県民文化祭「矢部村子ども文化事業」開催 新真弓尾住宅団地若者定住促進住宅が完成 国民文化祭「ハ女津媛伝説フェスティバル」矢部まつりと同時開催 高齢者生産活動センター「杣の木工」が再開 矢部村多目的交流ホール「木龍」が平成15年度優良木造表彰施設 林野庁長官賞を受賞
平成16年	矢部小学校山村留学制度発足 7月の集中豪雨により多大な災害発生 柳川市と「水のふるさと協定」を締結 国道442号竹原峠トンネル供用開始 NPO法人世界子ども愛樹祭コンクール・コスモネット設立
平成17年	山村留学センター「おおそま自然の家」開設 矢部村が提案する「森林資源を活用した地域雇用機会の増大事業」が厚生労働省の促進事業に認定 矢部村農産物直売所「まんてん」が3月に開設 福岡市博多区にアンテナショップ「ソマリアン」呉服町店が開設 蕎麦処「まんどき」がオープン 福岡県茶品評会で農事組合法人「茶香房みらい」が農林水産大臣賞受賞
平成18年	国道442号日向神「さくら橋」新設 矢部村診療所に海外から医療視察団（アフガニスタン・パレスチナ）が来村、地域医療の現場を視察 行政区再編16行政区から6行政区に 矢部中学校が英語教育優秀校として文部科学大臣賞を受賞 第59回福岡県植樹祭が矢部村で開催 九州の林業・山の暮らし（ふるさとツアー）が矢部川上流部で開催。講師には中司謙治矢部村長
平成19年	矢部村が全国町村会から平成20年度「優良町村表彰」を受賞
平成20年	山菜文化研究会九州大会が矢部村で開催 黒木町、立花町、矢部村、星野村がハ女市に編入合併
平成21年	
平成22年	

星	野
昭和57年	星野勤労者体育センター（池の山グラウンド）が完成 大円寺にて征西将軍懷良親王の600回忌大法要を行う
昭和58年	星野村商工会館が完成 星野村農産物直売所を設置 星野村青年団の演劇「村に生きる」が全国大会に出場
昭和59年	「星のふるさと会」、「ふるさと便・手作りの味」の全国発送を開始 第1回星野村花木園共進会を開催 第1回星のまつりを開催 全国茶品評会・玉露の部で星野村が産地賞を受賞 勤労青少年ホーム完成
昭和61年	農林水産祭の村づくり部門で、棕谷地区が農林水産大臣賞を受賞
昭和62年	B&G財団星野海洋センター屋内プールが完成 第1回星野村社会福祉大会開催 星野中学校が新築落成 県庁跡地にて「星のふるさとフェア」開催
昭和63年	第1回星野村新茶まつり開催 スターウッチング星空の街でコンテスト 環境庁大気保全局長賞を受賞 星野太鼓保存育成会発足 鍵光寮が開かれる
平成元年	村制100周年記念企画として「第1回九州和太鼓フェスティバル」が開催 峰越林道、靈巖寺池の山線が開通 農産加工施設「星の里」が完成 星野村木材産業共同組合（製材所）設立 室山熊野神社樹齢600年の大杉が倒れる
平成 2 年	星野村のシンボルマークとシンボルキャラクターが決定 山村留学児童受け入れ開始（センター方式）
平成 3 年	台風17号・19号星野村の被害総額32億円 財団法人「星のふるさと」設立 「星の文化館」が開館
平成 4 年	「古陶星野焼展示館」が開館 第1回むらおこし歴史シンポジウム開催 NHKテレビ「ゆく年くる年」で星の文化館が全国放送
平成 5 年	「第1回ホタル祭り」が開催
平成 6 年	「茶の文化館」が開館 星野小学校が改築竣工 小野地区営農飲雑用水給水開始
平成 7 年	平和の広場に「平和の塔」建立 美しい日本の村景観コンテストにて「農林水産大臣賞」受賞 古陶星野焼展示館が「福岡県建築住宅文化賞」を受賞
平成 8 年	「移動知事室」が開催
平成11年	「日本の棚田百選」に農水省から選ばれる山村留学「星の自然の家」（センター方式）として受け入れ開始
平成12年	星野村総合保健福祉センター「そよかぜ」が開館 全国棚田サミットが浮羽町（現・うきは市）と共催で開催
平成13年	池の山荘に星の温泉館「きらら」がオープン 仁田原地区営農飲雑用水給水開始
平成15年	仁田原駐在所115年の歴史に幕 全国茶サミットがハ女市で開催 「星の自然の家」交流施設が完成
平成19年	行政区が再編 小学校が統廃合 第1回玉露のうまい淹れ方コンテスト開催 合併住民投票
平成20年	NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟
平成21年	黒木町、立花町、矢部村、星野村がハ女市に編入合併
平成22年	

歴代首長

八 女 市			
中 島 一 之	初代	S29.4～	S30.4
服 部 寅 雄	2代	S30.5～	S34.4
主 計 貞 二	3代	S34.5～	S38.4
	6代	S48.1～	S52.1
末 金 僭 一	4代	S38.5～	S39.12
牛 島 節 二	5代	S40.1～	S48.1
斉 藤 清 美	7代	S52.1～	H5.1
野 田 国 義	8代	H5.1～	H20.9
三田村 統之	9代	H20.11～	

黒 木 町			
内 藤 勘 藏	初代	S29.4～	S41.4
大橋 留三郎	2代	S41.4～	S44.2
川 島 稔	3代	S44.2～	H元.2
横溝 彌太郎	4代	H元.2～	H17.2
小 川 光 吉	5代	H17.2～	H22.1

立 花 町			
中 村 次 平	初代	S30.5～	S34.4
平 島 大 勝	2代	S34.5～	S38.4
中 尾 順 藏	3代	S38.5～	S50.4
田 中 近 作	4代	S50.5～	S54.4
甲 木 安 英	5代	S54.5～	S58.4
堤 菅 雄	6代	S58.5～	H6.3
鷗 木 久 義	7代	H6.4～	H14.4
田 中 礼 助	8代	H14.4～	H22.1

歴代議長

八 女 市			
末 金 僭 一	初代	S29.4～	S38.4
近 藤 正 實	2代	S38.5～	S42.5
三 浦 智 典	3代	S42.5～	S46.5
斉 藤 清 美	4代	S46.5～	S52.1
秋 山 道 太	5代	S52.2～	S54.5
黒 岩 省 三	6代	S54.5～	S56.6
	8代	S58.5～	S62.4
大 坪 重 敏	7代	S56.6～	S58.5
	9代	S62.5～	H3.5
上 村 正 記	10代	H3.5～	H7.5
中 園 一	11代	H7.5～	H11.5
樋 口 安 癸 次	12代	H11.5～	H15.5
平 井 覚 一	13代	H15.5～	H19.5
武 田 忠 匡	14代	H19.5～	H20.10
松 延 外 喜	15代	H20.12～	H23.5
井 上 賢 治	16代	H23.5～	H25.6
川 口 誠 二	17代	H25.6～	

黒 木 町			
長 野 信 一	初代	S29.4～	S30.3
松 木 富士雄	2代	S30.4～	S40.6
堤 米 一	3代	S40.6～	S42.4
川 島 稔	4代	S42.5～	S44.1
松 尾 要	5代	S44.2～	S49.9
緒 方 武 磨	6代	S49.9～	S54.4
似 吹 喜 藏	7代	S54.5～	S62.4
横 溝 正	8代	S62.5～	H元.2
内 藤 義 彦	9代	H元.2～	H3.4
鍋 島 勝	10代	H3.5～	H7.4
八 田 健 作	11代	H7.5～	H11.4
松 野 萬 吉	12代	H11.5～	H15.4
堀 下 清 隆	13代	H15.5～	H16.6
草 場 雄 二 郎	14代	H16.6～	H19.4
松 木 道	15代	H19.5～	H22.1

上 陽 町			
小 川 秀 木	初代	S33.4～	S37.4
	3代	S41.4～	S57.4
井 上 常 雄	2代	S37.4～	S41.4
川 口 義 則	4代	S57.4～	H6.4
牛 嶋 剛	5代	H6.4～	H18.9

矢 部 村			
坂本 虎之助	初代	M22～	M37
宮 内 萬 吉	2代	M38.3～	T6.1
坂本 鐵之進	3代	T6.2～	S7.12
田 中 穆	4代	S8.6～	S21.10
轟 政 次 郎	5代	S22.4～	S38.4
江 田 勝	6代	S38.5～	S50.4
若 杉 文 夫	7代	S50.5～	S58.4
若 杉 繁 喜	8代	S58.5～	H8.5
栗 原 照 幸	9代	H8.6～	H12.5
原 嶋 貞 夫	10代	H12.6～	H16.5
中 司 謙 治	11代	H16.6～	H21.9
田 島 富士雄	12代	H21.10～	H22.1

星 野 村			
高 木 良 一	初代	M22.5～	M38.9
高木 好太郎	2代	M38.11～	M42.11
今 村 和 方	3代	M42.11～	T15.2
高 木 賢 之	4代	T15.5～	S5.5
西 田 七 郎	5代	S5.6～	S13.6
江 頭 一 郎	6代	S14.12～	S18.12
高 木 良 之	7代	S18.12～	S21.12
	9代	S34.5～	S37.7
西 田 定 夫	8代	S22.4～	S34.4
橋爪 喜三郎	10代	S37.9～	S49.9
谷 口 俊 一	11代	S49.9～	S56.6
倉 住 茂	12代	S56.7～	S62.6
高 木 万 藏	13代	S62.7～	H7.7
松 永 雅 男	14代	H7.7～	H15.7
藤 崎 正 昭	15代	H15.7～	H19.7
高 木 良 之	16代	H19.7～	H22.1

矢 部 村			
小 川 初 次	初代	S22.5～	S26.4
松 尾 虎 吉	2代	S26.5～	S30.4
原 島 千 代 吉	3代	S30.5～	S34.4
	6代	S42.5～	S50.4
川 島 真 純	4代	S34.5～	S38.4
宮 原 茂 樹	5代	S38.5～	S42.4
小 川 正	7代	S50.5～	S54.4
高 山 三 郎	8代	S54.5～	S58.4
中 司 政 行	9代	S58.5～	H3.4
吉 開 正 行	10代	H3.5～	H11.4
仁 田 原 石 義	11代	H11.5～	H19.4
栗 原 吉 平	12代	H19.5～	H22.1

星 野 村			
田 辺 伍 市	初代	S22.4～	S26.4
橋爪 喜三郎	2代	S26.4～	S37.8
石 橋 角 藏	3代	S37.9～	S42.4
谷 口 俊 一	4代	S42.5～	S49.8
倉 住 茂	5代	S49.9～	S54.4
高 木 等	6代	S54.5～	S58.4
川 崎 末 弘	7代	S58.5～	H3.4
松 永 雅 男	8代	H3.5～	H7.4
高 木 眞 一 郎	9代	H7.5～	H11.8
内 藤 惇	10代	H11.8～	H15.6
高 木 良 之	11代	H15.6～	H19.6
高 木 俊 之	12代	H19.6～	H22.1

上 陽 町			
久木原 宇藏	初代	S33.5～	S37.4
久木原 政成	2代	S37.5～	S39.5
川 口 武 雄	3代	S39.5～	S41.4
角 田 茂	4代	S41.5～	S43.2
小 川 亀 吉	5代	S43.3～	S45.4
井 上 嘉 晴	6代	S45.4～	S49.4
	9代	S57.5～	S59.6
井 上 繁 行	7代	S49.5～	S55.12
久 間 茂 信	8代	S55.12～	S57.4
	11代	S61.5～	H2.4
荒 川 隆 二	10代	S59.6～	S61.4
上 野 重 人	12代	H2.5～	H10.4
西 村 重 利	13代	H10.4～	H13.5
川 口 正 博	14代	H13.5～	H14.4
小 川 健 之	15代	H14.5～	H18.4
久 間 一 正	16代	H18.5～	H18.9



ごあいさつ

昭和29年4月1日、福島町、川崎村、忠見村、岡山村の合併により、私たちのまち八女市が誕生し、本年、市制施行60周年の記念の年を迎えました。平成18年には上陽町と合併し、平成22年の黒木町、立花町、矢部村、星野村との合併からは5周年を迎える年でもあります。

本市は先達の英知とたゆみのない努力により矢部川の清き流れとともに豊かな農産物の生産地となり、あわせて歴史と伝統と文化にあふれた地域として発展してまいりました。

この記念すべき年度に、先達の労への感謝とともに、ふるさとへの誇りと愛着を持ち、市民の皆さんが手を携えて八女市の未来へ歩みを進める契機となる事業や八女市を訪ねられる皆さんに楽しんでいただく事業を数多く開催してまいります。

特に、これまでの歴史や文化を振り返り、文化や伝統・芸術の豊かさを改めて感じるまちづくりを進め、様々な縁や結びつきを契機とした都市間交流を進めることにより八女の魅力と活力を高めていきたいと考えております。

平成24年7月の九州北部豪雨災害発生から1年8カ月が経過し、この間、復旧・復興を市政の最優先課題に位置づけ、「オール八女体制」で各種施策に取り組んでまいりました。皆さんのふるさと八女への思いが原動力となり、着実に復興への歩みを進めております。ご支援ご協力いただいた多くの方々にお礼申し上げます。

今回、この記念誌表紙には桜の花びらを和紙で表現させていただきました。桜は市の多くの場所で市内外の方を喜ばせています。この桜も先達が植え、大切に育てられ、そして現在私たちがそれを見て楽しんでいます。このすばらしい桜も後世に大切に引き継いでいかなければならないもののひとつです。

この市制施行60周年・合併5周年を契機として第4次総合計画の将来都市像である「ふるさとの恵みを生かし安心して心ゆたかに暮らせる交流都市八女」実現に向け今後も市民のみなさんとの協働によるまちづくりを推進してまいりますので、今後ともより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

八女市長 三田村 統之



祝 市制60周年・
合併5周年

昭和29年に八女市が誕生して60周年、また、平成22年2月の合併から5周年を迎えることができました。誠にありがとうございます。八女の地で発展に尽くされた先人たちのご努力のたまものであるとあらためて思うところでございます。

昭和の時代にも豪雨災害に見舞われ、平成になってすぐには台風被害を受けました。平成23年3月には東日本大震災と津波被害による福島原発事故、24年7月には九州北部豪雨で筑後地区一帯、ふるさと八女の地も大きな被害を受けました。

仮に、合併をしていない時期に九州北部豪雨被害に遭っていたら、それぞれの市町村がどのような対応をとれたのだろうかと思います。幸い、合併を済ませていたからこそ旧市町村のエリアを超え一つになった八女市民の力を発揮することができたのだと思います。地元消防団のご活躍、広域からの消防関係機関の応援、全国各地から多くのボランティアの皆さんにも来ていただきました。国・県のご支援なども含め、あらゆる方々からのお力をいただいたことに、八女市議会を代表して深く感謝を申しあげる次第です。

災害への対応に限らず、少子高齢化への対応、中山間地域や商店街の活性化、地方公共交通の将来の方向性などまだまだ多くの課題を抱えています。地方分権が進められ、自治体の自己決定と自己責任が拡大していることから、これらの課題を執行部とともに市議会も団結してクリアしていかなければなりません。開かれた議会、市民とともに歩む議会、市民に信頼され存在感のある議会をめざすことを理念に掲げた「八女市議会基本条例」を基本に置き、議会機能の一層の充実強化に取り組んでまいることをお約束します。

矢部、星野、黒木、立花、上陽、八女を見渡してみますと、清流が流れ、緑に囲まれ、田畑が広がり収穫できないものがないと言うほどの恵まれた地域です。伝統文化も数限りないほど伝え続けられております。この八女市を次の世代に伝えていくのが私たちの大事な仕事であると思います。

市制施行60周年と合併5周年に臨み、八女市が大きく飛躍し発展しますよう心よりお祈りし、お祝いのごあいさついたします。

八女市議会議長 川口 誠二